

俳句通信

特別作品25句 行方克巳「雪螢」

特集〈17結社の同人・会員 12句競詠〉

清水悠太 (閑)	「冬の虹」	田中朋子 (麦)	「春の森」
富田正吉 (栞)	「歩いてても歩いてても」	小川雪魚 (森の座)	「十三夜」
佐藤保子 (馬酔木)	「京浅春」	荒川ともゑ (ホトトギス)	「旅に遊ぶ」
田中 圭 (街)	「日向ほこ」	武藤由空 (玉藻)	「狐火」
田村節子 (諷詠)	「沈黙の地へ」	中嶋陽子 (風土)	「瞳たちろがず」
内藤ちよみ (朱夏)	「榎櫃の実」	飯田冬真 (磁石)	「黙秘権」
大山文子 (火星)	「春泥」	佐々木貴子 (陸)	「Gigant」
平松うさぎ (沖)	「鰯」	沼尾将之 (橘)	「しやがみこむ」
大西主計 (銀化)	「潮騒」		

【近詠30句】

波戸岡 旭「龍の玉」

【3人競詠20句】

有住洋子 「一片」

宮崎斗士 「海が見たい」

土肥あき子「空の辻」

【新連載・俳句の風】

飯田蛇笏と正岡子規 井上康明



突風や算を乱して黄水仙 中村汀女

黄水仙

春、川の水が温むと私のヘラブナな釣りは兵庫県の加古川や岡山県の吉井川、徳島県の吉野川などの比較的大きな川に行く。しかし、川の様子は数年毎に台風などで大水が出る度に変わり、河川敷内や釣りポイントも変わる。これも川の釣りの魅力でもある。

三月の河川敷内では、所々にある畑で白菜やキャベツなどの冬野菜や春野菜の収穫をしており、雲雀は暖かい風に鳴き、水辺には残り少ない鴨が気忙しく鳴き交わす。枯れ草に覆われている荒地では所々で若草が覗き、群れ咲いた水仙も勢いを失って行く。そんな時ひょっと一輪黄水仙が顔を出す。その先に二輪と続く。何処かで栽培されていたものが流されて来たものだろう。流石の藪漕ぎ名人と呼ばれる私もゴム長の踏み所を選びながら水辺に向かう事になる。

ごく普通の春先の風景だが、釣り人にとっては一番嬉しい春の釣りの始まりである。

絵・文 杉原武弘



特別作品25句

雪 蛩

行方克巳

腐れ蜜柑あまし少年老い易く
湯豆腐や追込みに足投げ出して
湯豆腐や切つた張つたのなき世にて
湯豆腐や二タ言三言しをらしく
殻潰し同土湯豆腐浚ひけり
あめつちのくらしとしたる湯ざめかな

特集

17結社の同人・会員 12句競詠

17の結社主宰から推薦された
17人の同人・会員による12句競詠です

大正文学会
大正文学会（山形県）（0401）- 210400
会人（国来米）等主筆（国来米）等主筆
人数等100
大正文学会（山形県）（国来米）等主筆

超結社句会 新12番勝負



前列右から西村氏、篠崎氏、井越氏
後列右から星野氏、堀田氏、藤本氏

ゲスト 井越芳子・篠崎央子

西村麒麟・堀田季何

ホスト 星野高士・藤本美和子

編集長 超結社句会第58回目です。本日のゲストは「青山」同人の井越芳子さん、「磁石」同人の篠崎央子さん、「古志」同人の西村麒麟さん、「楽園」主宰の堀田季何さんです。5句投句、7句選でお願いします。

高士 超結社句会、2022年、最初です。点が割れましたね。今日の高点句は4点です。では始めます。

洋館の白さを宿し水仙花

（芳）（麟）（高）（美）

芳子 「水仙花」を詠んでいるわけですが、「洋館の白さを宿し」が上手いと思いました。「水仙花」がよく見えるし、「洋館の白さを宿し」は言われてみると、なるほど、と思いますが、言葉にはなかなかならない。この上手さで頂きました。

麒麟 「水仙」が白いのは当たり前なんですけど、「水仙」を白と詠んだときに、納得させられるだけのものが「洋館の白さを宿し」にはあるなと思います、そこが新しいと思いました。

美和子 「洋館の白さ」で「水仙」の色を現しているんです